

白山市立松任図書館

だより



2017年 3月号

2017年3月1日発行
 編集・発行＝白山市立松任図書館
 〒924-0872 白山市古城町305番地
 電話(076)274-9877 FAX (076)274-5401
 URL <http://lib.city.hakusan.ishikawa.jp>
 e-mail:library@lib.city.hakusan.ishikawa.jp

(いずれも無料。詳しくは図書館までお尋ね下さい。)

★ 職員オススメの本 展

期間：3月15日(水)～4月9日(日)
 会場：1階展示コーナー
 内容：図書館職員がおすすめする本を紹介文と共に展示します。普段選ばない本を手にとって見られてはいかがでしょうか。



★ 卒業・入学の本 展

期間：～3月28日(火)まで
 会場：2階こども図書館
 内容：新しいスタートをきる季節です。卒業式・入学式をテーマにした絵本を展示します。



★ ボランティアデー

日時：3月7日(火)・18日(土)
 9:00～10:00
 場所：1階ロビー集合
 内容：返却資料の配架と書架整理



★ ブックスタート

*4か月児健診のお子さんと保護者
 3月9日(木)・16日(木)

会場：健康センター松任
 内容：絵本を通じて親子がふれあうことの大切さをお話しします。絵本入りバッグをお贈りします。



★ 囲炉裏端のおはなし会 おはなしの風をふかそう ～朽谷洋子さんをお迎えして～

日時：3月16日(木)
 10:30～12:00 朽谷さんのおはなし会
 13:00～15:00 おはなしの教室
 参加費：500円
 会場：学習センター2階 ライブシアター
 問合せ先：白山市立松任図書館
 松任おはなしの会



※詳しくはチラシをご覧ください。

★ 手とおはなしの会

日時：3月25日(土)13:30～15:00
 会場：2階 おはなしルーム
 内容：ろう者の大人の方による手話でのおはなし会です。



★ おはなし会

♪0・1・2歳児向け

3月 1日(水) 11:00～ アリス文庫
 3月 8日(水) 11:00～ 図書館職員
 3月15日(水) 11:00～ ハロー・リトルワールド
 3月28日(火) 11:00～ 松任おはなしの会

♪幼児向け

3月 4日(土) 11:00～ ひまわり・金城大短大部
 3月11日(土) 11:00～ ABCの会
 3月18日(土) 11:00～ おはなしびわの実
 3月25日(土) 11:00～ 松任おはなしの会

♪小学生向け

3月 4日(土) 14:30～ 図書館職員
 3月18日(土) 14:30～ 図書館職員

会場：いずれも2階おはなしルーム





ほんのおすすめ

この世は二人組ではできあがらない

山崎ナオコーラ著 新潮社 913.6 ヤ

大学で知り合った先輩の紙川さんと私は1978年生まれで、不景気な90年代に10代を過ごしたロスジェネレーションといわれる世代だ。

紙川さんは、卒業後就職難で学習塾のアルバイトをしていた。その一年後に卒業した私は、せっかく内定していた出版会社を断ってアルバイトをしながら小説家になろうと考えていた。気の合った二人は共同生活をするようになったが、紙川さんは二人の将来のため公務員採用試験にチャレンジすると言い出した。私は、アルバイトを減らし勉強に集中する紙川さんの邪魔にならないよう実家に戻り彼の生活費も援助した。

紙川さんは、公務員試験が一段落した頃「距離を置きたい」と言ってきた。紙川さんと私は「二人組」ではなくなった。私は正社員の職を得て、真剣に小説を書くことにした。そして、再び紙川さんと会った。自立したひとりの人間とひとりの人間として。

国境のない生き方 私をつくった本と旅

ヤマザキマリ著 小学館 726.101 ヤ

著者を古代ローマが舞台となっている漫画「テルマエ・ロマエ」で知っている方は多いでしょう。

著者は父の死後、5歳で母の仕事の都合で東京から北海道に移り住んだ。天真爛漫な母に勧められて14歳で欧州一人旅。偶然イタリアの陶器職人と出会ったことから17歳で絵の勉強のためにイタリアへ留学。幼い頃から北海道の大自然と多くの本から生きる力を得ていた著者は逞しかった。

貧乏暮らしだが、文壇サロンに出入りして多くの文学者や文学に触れていた。27歳の時、イタリアの詩人の子を出産したが、その後子とともに帰国。漫画で生きることを決意した。35歳で再婚。

シリア、ポルトガル、アメリカと人生の旅が続く。山あり谷ありの著者の半生には、いつも勇気づけてくれる本があった。著者のその時々生き方とリンクする本がたくさん紹介されていて、著者独特な本の解釈が興味深い。



図書館職員のおすすめの一冊

探検！東京国立博物館

藤森照信・山口晃著 淡交社 069.61361 7

東京国立博物館と言えば、我が国最古の博物館であり、質・量ともに日本一として知られています。こう聞くとちょっと敷居が高く感じられる方もいらっしゃると思いますが、本書では、建築史家・建築家の藤森照信氏と画家の山口晃氏がそれぞれ独自の見方で楽しんだ探検そのままに東京国立博物館を紹介しています。

お二人が東博でしてみたいリスト「お気に入りの作品を選ぶ」、「収蔵品を茶室で鑑賞」、「埴輪の家を見てみたい」等々に沿って進んでいきます。どの章もユーモラスなイラストと共に素直な感想が書かれているので、肩肘張らずに最後まで読むことが出来ます。

そうは言っても、お二人とも専門家ですので、素人が素通りしてしまいがちな箇所をきちんと紹介し、説明がなされています。

また、「舞台裏」編では「展示の舞台裏」、「保存修復」など中々目にする機会のない場所や気になる「ミュージアムショップ」まで忘れずに紹介しています。

この1冊を読めば「東博」通になれますし、本を読んで知った事をご自分の目で確かめたくなると思います。春休みに足を運んで見られてはいかがでしょうか。



「白山市立松任図書館だより」は、市立図書館ホームページ上でもご覧いただけます。

